

日本アロマセラピー学会 関西・中国四国支部合同地方会を終えて

関西・中国四国 地方会長

相原由花（ホリスティックケアプロフェッショナルスクール学院長）

2021年3月14日に「高齢者患者へのアプローチ 多職種連携に向けて」をテーマに、Web開催をいたしました。約80名もの会員の皆様にご参加いただき、深く感謝申し上げます。

教育講演1は、工藤千秋理事長より認知症の周辺症状に対する精油やタッチの効果についてご教示いただきました。さらにアロマセラピーは、西洋医学を代替するものではなく、補完するものであることを改めてお示しいただきました。教育講演2は、SOMPO ケアフーズ(株)の麻植有希子先生からデータを基に、高齢者が摂取しなければならない栄養、炭水化物の重要性などをご教授いただきました。多くのメディア情報の中で、正しい情報の発信が管理栄養士に課せられているという先生の言葉は、アロマセラピストにも言えることだと感じました。教育講演3は、兵庫医療大学リハビリテーション学部教授 玉木彰先生から、高齢者の筋力や意欲低下といった「フレイル」は、食事や運動によって十分改善し、健康状態を維持することができることをご指導いただきました。また先行研究からアロマセラピーもフレイル予防に一役が担えることをお示しいただき、チーム医療の可能性を見出すことができました。

厚生労働省は、高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援をし、可能な限り住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることをすすめています。この地方会が、他領域の専門家の実践目的や情報を共有し、互いに連携・補完し合える「多職種連携」につながることを願っています。